

科目名 地域企業経営史特論 (2単位)

担当者氏名 黒瀧秀久

◆学習・教育目標

経営学の研究が、資本主義社会における企業経営の組織と管理の特質を歴史的・理論的に明らかにすることを目的としていること、一国における再生産構造の史的展開と産業循環を含む資本主義発達史を基底にして企業経営と労使関係を連繋させた産業経営構造分析を行うため、その基礎理論を到達目標とする。なお、本講義では、「21世紀型の地域企業経営のあり方」をテーマとし、地域の企業経営の課題をエコ・ビジネスを含めた環境企業経営の視点を踏まえながら追究する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

経営史	エコ・ビジネス	コミュニティ・ビジネス	地域産業
グリーン・ニューディール	生物産業	地域活性化	環境経営

◆授業の進行等について（単位制度に基づく授業の進行予定・内容）

回数	テ ー マ	内 容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1-4回	経営史研究の諸系譜① (担当 黒瀧秀久)	経営学の基礎から地域企業経営のあり方を学ぶため、ここでは、経営史研究の諸系譜の前半（イギリス産業革命期における企業経営と経営・管理問題、アメリカ資本主義段階における大量生産体制、トラスト運動と企業合同、独占形成期における経営戦略と企業活動）を分析する。	経営史研究の諸系譜について学び、地域企業経営の課題を明らかにする。
5-8回	経営史研究の諸系譜② (担当 黒瀧秀久)	経営学の基礎から地域企業経営のあり方を学ぶため、ここでは、経営史研究の諸系譜の後半（19世紀末葉におけるアメリカの経営・管理問題、19世紀末以降～1920年にいたる管理組織の変遷、ニューディールと経営・管理問題、世界資本主義と経営問題）を分析する。	経営史研究の諸系譜について学び、地域企業経営の課題を明らかにする。
9-12回	資本主義的経営の歴史的特質と新たな企業経営の展開 (担当 黒瀧秀久)	資本主義的経営は今日において様々な問題や矛盾が惹起しており、地域企業には資本主義的経営を超えた社会企業などの新たな経営像が求められている。こうした動きとともに現局面のCSRや環境・コミュニティビジネスの展開について分析する。	資本主義的経営の限界性と新たな企業経営の展開のあり方について学ぶ。
13-15回	21世紀型の地域企業経営のあり方 (担当 黒瀧秀久)	経営学の理論・企業経営史・今日の企業経営の分析を踏まえて、生物産業（農・林・畜・水産）を主幹とする地域を対象に、地域企業のあり方と活性化について検討する。	21世紀型の地域企業経営のあり方を明らかにする。

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

『経営管理の思想と理論 企業、システム、持続可能性』／鈴木幸毅ほか／税務経理協会(2009年1月)

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

『サステナビリティと経営学 共生社会を実現する環境経営』／足立辰雄・所伸之編／ミネルヴァ書房(2009年5月)

◆評価の方法（レポート・小テスト・定期試験・課題等のウェイト）

講義への出席(4分の3以上)とレポートにて評価する

◆その他受講上の注意事項
